

あの遺跡は今！Part21

～きて・みて・さわって考古学～

平成 27 (2015) 年 7 月 19 日 (日) / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおりて
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。

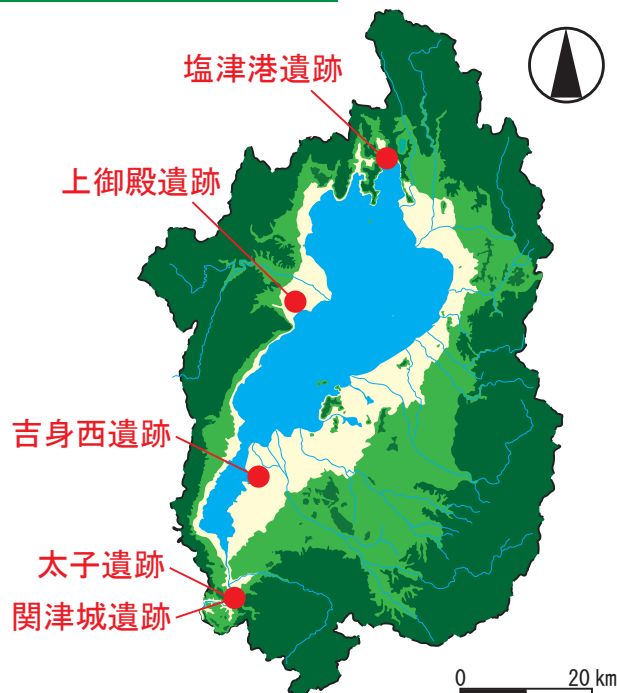


公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

公益財団法人滋賀県文化財保護協会は、県内各地の埋蔵文化財の発掘・整理調査を行っています。滋賀県立安土城考古博物館内にある整理調査課では、整理調査の成果についてより深くご理解いただけるように、「あの遺跡は今！」を平成17年度から毎年2回実施しています。新たな資料や成果を積極的に公開・展示するとともに、出土品に直接触れていただく整理作業体験などを行っています。

今回は、整理調査の様子をより間近で見学し、その一部を体験していただきます。

この企画が、滋賀の歴史を体感し、文化財への興味と親しみをお持ちいただくきっかけとなり、楽しい夏の思い出になればさいわいです。



年代	時代区分	日本の主な出来事	今回取り扱う遺跡とその時期
B.C.500年	縄文	約 2500 年前 稲作始まる。	
300年	弥生	248 年頃 卑弥呼死す。 前方後円墳が各地にさかんに築造される。	
	古墳	6C初 継体大王 即位	
600年	飛鳥	604 年 憲法十七条の制定。 645 年 大化の改新 (乙巳の変)。	
700年		667 年 近江大津宮へ遷都。 710 年 平城京へ遷都。	
800年	奈良	742 年 紫香楽に離宮を造る。 794 年 平安京へ遷都。	
1200年	平安	1016年 藤原道長が摂政となる。 1192 年 源頼朝が征夷大将軍となる。	
1300年	鎌倉	1336 年 足利尊氏が征夷大将軍となる。 1576 年 織田信長、安土城に移る。	
1500年	室町		
1600年	安土桃山	1582 年 本能寺の変。 1600 年 関ヶ原の戦い。	
	江戸	1615 年 大坂夏の陣。 一国一城令。	

—ご先祖様に〈お供え〉した古墳—

よしみにし 吉身西遺跡（守山市守山4丁目）

守山市のほぼ中央に滋賀県成人病センターがあります。ここは吉身西遺跡のだ真ん中にあたります。病院の改築工事に伴って、発掘調査を実施しました。

見つかったのは、1800～1200年前のムラの跡です。古墳時代や奈良時代頃の人たちが住んでいました。竪穴住居とよばれる家の跡のほかに、古墳もみつかっています。

古墳とは〈お墓〉のことで、いろんな形があります。今回は、上から見ると円いもの——円墳が見つかりました。直径は17m、こんもりとした墳丘は無くなっていましたが、周りのお濠が残っていました。作られたのは、古墳時代中頃です。その100年後にもう一度〈お供え〉をしていた跡も発見しました！ ご先祖様に盛大なお供えをしていたのかも・・・。



人が囲っている部分が円墳です！



お供えされていた土器。上の方は、わざと割られています。

—祭祀で使われた〈はきもの〉？—

かみごてん 上御殿遺跡（高島市安曇川町）

上御殿遺跡は、青井川の河川改修事業に伴って平成20年度から平成26年度にかけて発掘調査を実施しました。

見つかった遺構のひとつに、古墳時代から平安時代にかけての川跡があり、当時の生活道具が数多く出土しました。その中に、奈良時代から平安時代にかけての木の道具がありました。都や地方の役所などで使用された祭祀具や、役人など特別な身分の人が使用する木履等です。

祭祀具には人形代ひとかたしろや馬形代うまかたしろなどがあり、主に身についた穢れけがを祓はらうのに使用されたと考えられるものです。出土した点数の多さから、長い間、この場所で祭祀が行われ続けていたことがわかりました。木履は、祭祀具の近くから出土しています。神主さんのような木履をはく人物が、祭祀に関わっていたと考えられます。



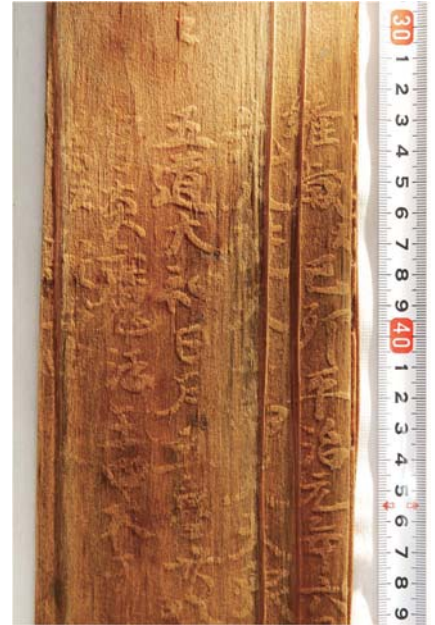
左：人形代 右上：馬形代 右下：木履

—浮かび上がる文字～数百年の時を越えて～—

しおつこう 塩津港遺跡（長浜市西浅井町塩津浜）

塩津港遺跡は琵琶湖の最北端部にあります。平安時代後半の神社と港を中心とする遺跡で、神像のほか、檜皮や瓦などの建築部材、幣串・しめ縄・灯明などの祭礼具、飾り金具、土師器皿、起請文札、荷札木簡など、多くの貴重な資料がみつっています。

この中に、墨は残っていませんが、墨の乗っていた部分が周囲の風化によって浮き上がっている文字資料があります。こうした文字は、ふつうの状態ではっきり見えるものはほとんどありません。ところが、光を斜め上から当てると（斜光法）、あら不思議！文字がくっきり浮かび上がってきます。それにしても、文字を書いた人たちは、数百年後に自分の書いた字が残っているとは想像していなかったでしょうね。



木簡（斜光写真）
見えなかった文字がくっきりと…

—柱穴に埋められたお皿!?—

たいし 太子遺跡（大津市太子2丁目）

平成25年度に実施した太子遺跡の発掘調査では、中世ごろの建物跡など様々な遺構と、土器や石器、鉄製品などの遺物が見つかりました。

今回ご紹介するのは、建物の柱穴の底から見つかった土器です。土器そのものは、当時一般的によく使われていた土師器の皿で、11世紀頃に作られたものだと考えられています。気になるのは、この土器が柱穴の底からほぼ水平な状態で見つかったことです。柱穴から柱材を抜いた時に、柱穴の底へこの土器を丁寧に置いたと考えられます。当時の人々は、建物を壊した後も、地鎮のためか、何かの目的で、お祭りをしていたのでしょう。



見つかった土師器皿



掘立柱建物

—「戦い」だけではないお城の姿—

関津城遺跡（大津市関津3丁目）

関津城遺跡は、瀬田川の東岸にある田上丘陵の先端部に築かれた戦国時代の城跡です。発掘調査の結果、曲輪からは複数の建物跡が見つかっています。このような建物の周辺からは、匠のワザが光る金属製品も出土しています。

押縁は屏風などの縁を押さえる飾金具で、五三桐文が描かれ、まわりは細かな点々を打ちつけて文様としています。亀形銅製品は用途が不明ながら、亀の手足が表現され、愛嬌のある動きを表現しています。これらの金属製品は客人に披露する空間を彩った調度品であった可能性があります。

「城」といえば「戦い」のための防御施設と考えがちですが、関津城では客人を招き、もてなす、「社交の場」としての機能も備えていたことを物語っています。



発掘された関津城



押縁（五三桐）



亀形銅製品

